

臨床腫瘍科

1. スタッフ（2018年4月1日現在）

診療科長（教 授）藤井 博文
 病棟医長 藤井 博文
 医 員（特任教授）山口 博紀

2. 診療科の特徴

平成18年4月に臨床腫瘍部、同年6月から臨床腫瘍科として11年目を迎えた。消化器外科・内科、耳鼻咽喉科、等と密に連携しており、これらの科に関連した頭頸部癌、消化管癌、胆・膵癌、原発不明癌、重複癌、肉腫などを取り扱い、臓器横断的に薬物療法、集学的治療を行っている。

業務の主体は外来診療で、多彩ながん薬物療法を多数行っており、外来治療センターを看護師、薬剤師、臨床心理士などのコメディカルの参加によるチーム医療をもって運用している。入院は初回化学療法導入を目的とした大腸癌、短期入院での胃癌、術前の食道癌等の化学療法、化学放射線療法症例がほとんどを占め、各臓器診療科に担当を任せている。

使用する抗がん薬としてはホルモン剤、殺細胞性抗がん薬、分子標的薬、免疫療法があり、集学的治療としては放射線治療部との協力による頭頸部癌・食道癌に対する化学放射線療法、消化器外科との協力による食道癌・胃癌・大腸癌・膵癌などの周術期の化学療法などを担当している。

対象は進行例がほとんどであるため、治療開始当初からの緩和ケアを精神腫瘍の連携等を持ってQOLの向上を目指している。緩和ケア主体の時期へ移行した場合は緩和ケア科や近隣の病院や診療所との連携で対応している。心理面での支援の要望も多く、精神腫瘍、臨床心理士と連携して提供している。

臨床研究としては、消化器外科、耳鼻咽喉科、口腔外科、放射線治療部と連携し各種の多施設共同試験に参加している。治験に関しても、消化器外科・内科、耳鼻咽喉科、口腔外科との連携で新薬の開発試験を行っている。また、最近のトランスレーショナルリサーチの重要性から、病理部には日常臨床における個別化への対応を含め年々連携を深めてきている。

教育としては、文部科学省「多様な新ニーズに対応するがん専門人材（がんプロフェッショナル）養成プラン」採択事業である、当学の「全人的なライフステージに応じたがん医療の実践者養成」運営の中心的な役割を担っており、医師・歯科医師・看護師・薬剤師のみならず、心理士・MSW等のがん診療に関与する全職種に対する教育を行っている。

がん患者が増え続ける中、がん診療の質の向上も要求されており、がん診療連携拠点病院として当院の活動の中心的な部署として位置している。

・認定施設

日本臨床腫瘍学会認定施設

・認定医

日本外科学会 認定医	山口
日本外科学会 指導医	山口
日本外科学会 専門医	山口
日本消化器外科学会 専門医	山口
日本消化器がん外科治療認定医	山口
日本消化器病専門医	山口
日本胃腸科認定医	山口
日本胃腸科暫定専門医	山口
日本胃腸科指導医	山口
日本乳癌学会 認定医	山口
日本がん治療 認定医	山口

3. 診療実績

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	再来患者数	紹介率
28人	8,875人	40.7%

2) 入院患者

3) 手術症例

4) 治療成績

解析に至らず

5) 合併症例

6) 死亡症例・死因・剖検数

死亡症例数	
死因	現病死
剖検	

7) 主な化学療法、治験実施件数

CDDP/GEM	11名
CET/PTX	10名
CPT/PANI	7名
DOC	8名
FOLFIRI	4名
FOLFIRI/BEVA	15名
FOLFIRINOX	2名
FOLFOX	9名
FOLFOX/BEVA	36名
FOLFOX/PANI	1名
GEM	21名
G-SOX	14名
IRIS	1名
nabPTX/GEM	30名
PTX（毎週）	26名
RAM/PTX	17名
SIRB	5名
sLV5FU2/BEVA	20名
SOX・XELOX	17名
SOX / BEVA・XELOX / BEVA	30名
（治験）ONO-4538	4名
（治験）TAS-118	2名
（治験）パクリタキセル	1名

8) カンファランス

(1) 診療科内 随時

(2) 他科・他部署との合同

毎朝	消化器外科、乳腺外科術前カンファレンス（外科）
毎週水曜	肝・胆・膵カンファレンス（外科）
毎週木曜	大腸癌カンファレンス（外科） 胆・膵カンファレンス（内科）
毎夕	外来治療センターカンファレンス

9) キャンサーボード

月1回

【外来治療センターカンファレンス】（臨床腫瘍科・消化器外科）

【実績】 1年間 242回

1月	2月	3月	4月	5月	6月
19回	19回	22回	21回	18回	22回
7月	8月	9月	10月	11月	12月
20回	22回	19回	21回	19回	20回

4. 2018年の目標・事業計画等

- ①外来治療センターの運用改変に伴う安全かつ効率的な運用
- ②地域がん総合医学コースによるがん医療の教育
- ③学部教育への積極的な参加による卒前がん教育充実への推進
- ④精神腫瘍の充実のための心理士の確保と早期介入
- ⑤医局員の確保と業務量軽減